

# 鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定会議（外部委員会）

## 令和7年度第3回委員会 議事録

日時 令和7年(2025年)11月11日(火)

15:00~17:00

会場 鎌倉商工会議所 301 会議室 (zoom 併用)

### 1. 出席者

委員長	金子 雄一郎 (社会資本マネジメント)
副委員長	勝地 弘 (道路)
委員	出雲 淳一 (道路) ※zoomによる出席
	堀江 信之 (下水道・河川)
	飯田 晶子 (公園・緑地) ※zoomによる出席

#### 鎌倉市

##### 事務局

都市整備部	森部長
都市整備部 (下水道河川課)	杉浦次長
都市整備部 (都市整備総務課)	高橋次長
都市整備総務課 (事務局)	横山担当係長
	永井
	山口

##### 施設所管課

都市景観部 (みどり公園課)	田中次長
環境部 (環境施設課)	不破次長
道水路管理課	伊藤課長
道水路調査課	下澤課長
道路課	秋山課長
下水道経営課	岩崎課長
作業センター	小田切所長
浄化センター	森田所長

##### 事務局 (コンサルタント)

八千代エンジニアリング株式会社 ※zoomによる出席

### 2. 議事

- 1 各施設におけるリスクとパフォーマンスについて
- 2 将来経費について
- 3 計画改訂 (素案) について
- 4 その他
  - ・今後の予定など

### 3. 委員会資料

- ・ 資料1：令和7年度第3回委員会説明資料
- ・ 別紙1：全体構成図
- ・ 別紙2：計画概要版

### 4. 開会あいさつ等

～開会、資料確認、傍聴者入室について確認～

～傍聴者入室～

～令和7年度第2回委員会（令和7年（2025年）10月14日）の議事録確認

- ・ 一部記載について、委員再確認により確定することとした～

### 5. 審議内容

#### (1) 1 各施設におけるリスクとパフォーマンスについて

- ・ 事務局：前回ご審議いただいたリスクとパフォーマンスの整理表について、各施設所管課と再度議論を行い修正しました。主な修正点は、リスクの影響度と発生確率の区分を明確化した点です。

まず影響度については、人命に関わる人身事故や、市全体の1%以上に及ぶ財産への影響があるものを「大」、けがを伴う人身事故や市全体の1%以上に及ぶ社会経済活動への影響、あるいは局所的な財産への影響があるものを「中」、快適性の低下や生態系・環境・景観への影響、局所的な社会経済活動への影響にとどまるものを「小」として3区分で定義しました。なお、ここで言う市全体の1%とは、厳密な数値定義というよりは、財産や社会経済活動への影響が局所的にとどまらず、市域や市民等の広範囲にわたって発生あるいは波及するものを指します。

次に発生確率についても区分を見直しました。「大」は年に複数回以上発生するもの、「中」は数年に1回程度で概ね10年以内に発生する頻度のもの、「小」は数十年に1回程度で10年以上発生しない確率の低いものとししました。

これに基づき各施設のリスクを特定し、影響度と発生確率を整理しています。なお、施設によっては同じ分類でも、例えば幹線道路にあるか生活道路にあるかといった橋梁の位置によって影響度が異なるため、評価に幅を持たせた表記としています。また、災害リスクについては、平常時のマネジメント計画とは区別しつつも、老朽化により災害時のリスクが高まる点を考慮し、リスク特定の一要素として整理を行いました。

- ・ 委員長：ありがとうございます。補足しますと、リスクの影響度と発生確率に幅を持たせている点について、例えば橋梁であれば、幹線道路にあるのか、交通量が少ない生活道路にあるのかによって社会的影響は大きく異なります。そのため、施設分類の中で幅を持たせた表現になっています。ご意見等ございますでしょうか。
- ・ 委員：財政リスクについてコメントです。資料に星印で示されていますが、例えば橋梁のように財政リスクは大きいが発生確率は小さいもの、下水道のように発生確率も財政リスクも大きいものなどがあります。これらの組み合わせによって、マネジメントの重要性や確実性の優先順位が変わってくると思います。そうした視点で整理が進むと良いと思います。
- ・ 事務局：おっしゃる通りです。リスクの大きさと発生確率の掛け合わせで優先順位を決めていきます。なお、下水道については、処理場や大規模管きよ等を想定して財政リスクを「大」としていますが、小規模な陥没等は発生確率が高くても財政リスクはそこまで大きくないなど、施設内でも幅があります。
- ・ 委員：発生確率についてですが、これは定量化できるものなのでしょうか。

- ・ 事務局：現状は担当課へのヒアリングによる感覚的な部分が含まれますが、要望件数や事故記録など、過去 10 年以内のバックデータが確認できるものについては、可能な限り整理して裏付けを取りたいと考えています。
- ・ 委員長：ありがとうございます。客観的な根拠を持たせることが重要と思います。他にいかがでしょうか。それでは次の議題に移ります。

## (2) 2 将来経費について

- ・ 事務局：一資料 1 p2 説明一
- ・ 委員長：ありがとうございます。試算の条件と結果についてご意見をお願いします。
- ・ 委員：資料 12 ページの「積み増し必要・不要」の欄で、横線になっている箇所がありますが、どのような意味でしょうか。
- ・ 事務局：失礼しました。横線の部分については、計画よりも実績が上回っており不足額が生じていないため「不要」という意味です。
- ・ 委員長：橋梁について、実績が計画を上回っている部分がありますが、将来推計はどうなりますか。
- ・ 事務局：橋梁は、ペDESTリアンデッキの追加や、点検結果に基づく早期措置段階、すなわち判定 III などへの対応が集中的に行われたため実績が上振れしました。しかし、一巡目や二巡目の点検と対策が進んだため、今後は計画に基づき、これまでほどの費用は発生しない想定です。
- ・ 委員：資料 1 の 7 ページで、直営職員の減少に伴い委託費が増加するというのは、人件費が含まれているのでしょうか。また、維持管理費は予測しやすいが、補修更新経費は変動が大きいという理解でよいでしょうか。
- ・ 事務局：まず人件費についてですが、今回の委託費等の経費には人件費は含まれていません。あくまで外部に支払う経費として、直営でやっていた分を委託に回せばその分増えるという意味です。次に経費の性質についてですが、維持管理費はルーティンであり予測しやすいものの、台風等の影響で変動等があります。一方、補修更新経費については、計画との差異が出やすく、変動が大きい傾向にあります。
- ・ 委員：補修・更新費について、分野を横断して予算を融通し、配分を再配分しながら計画を進めるような柔軟な考え方はありますか。
- ・ 事務局：それが本計画の目指す全体最適の姿だと認識しています。国費がつく橋梁や下水道等の事業が進みやすい一方で、予算や人手不足で遅れている分野もあります。今回整理したリスク・パフォーマンス評価を用いて、分野横断的に優先順位を調整する仕組みを検討したいと考えています。
- ・ 委員：積み増しについて 2 点質問です。一つ目は、積み増し不要で余ったとされるお金は、他の分野に回せるのでしょうか。二つ目は、積み増しが必要なものについて、不足額の全てを積み増す必要があるのでしょうか。例えば公園の樹木更新など、計画上是 40 年サイクルで植え替えるとしても、実態として本当にすべて植え替える必要があるのか疑問です。使っていない 9 割のお金を全部積み増して、本当に使い切れるのでしょうか。もう少しグラデーションがあっても良いと思います。
- ・ 事務局：まず一つ目ですが、余ったというのは予算がプールされているわけではなく、単に投資がなされなかったという意味ですので、そのまま他に回せるお金があるわけではありません。二つ目の積み増し額については、おっしゃる通り精査が必要です。予算の裏付けがあるわけではなく、あくまで試算上の不足を可視化するために積み上げていますが、公園の樹木更新のように、画一的な計算が実態に即していない場合もあります。必要なものに絞り込んで計上するよう、精査を進めたいと思います。
- ・ 委員長：重要なご指摘です。マクロな視点で全体でこれだけ不足しているという傾向を把握しつつ、耐用年数設定などの個別の積算根拠については、実態に合わせて見直す必要があります。また、試算結果を見ると、実績が計画を大きく下回っています。これは予算制約や、人手不足で執行できなかったことが要因と考えてよいでしょうか。

- ・ 事務局：その通りです。国費がつかなくなったことや、災害対応に人手を取られて予防保全的な更新作業に手が回らなかったことが主な要因です。
- ・ 委員長：将来推計と実績の乖離、すなわち予算制約の中でどう対応するか、リスクとパフォーマンスのバランスをどう取るかという議論につなげていく必要があります。

### (3) 3 計画改訂（素案）について

- ・ 事務局：一別紙1、別紙2 説明—
- ・ 委員長：ありがとうございます。全体構成や概要版についてご意見をお願いします。
- ・ 委員：冒頭の計画の目的についてですが、前の計画を振り返って、結局このマネジメント計画で何がどうなるのか、何を目指しているのかをもっと明確にすべきです。安全安心な生活を支えるといった大きな言葉だけでなく、この計画を実行することで市民にとって何がどう良くなるのか、10年後のインフラ管理はこんなに良くなっているという効果をはっきり明文化し、共有すべきです。そうでないと、実行する側のインセンティブにもなりませんし、後で評価する物差しにもなりません。  
PDCA と言いますが、アセットマネジメントを10年やってきて、チェックすなわち評価と、アクションすなわち改善がどれだけできていたのでしょうか。人が足りない、予算がないと追われているだけで、やり方を変えて改善していかないままでは、気が付いたら事故が頻発する状況になってしまいます。お金の手当てに加え、やり方をどう変えるか、10年後の目標をしっかりと共有した上で計画を作るべきだと思います。
- ・ 事務局：貴重なご意見ありがとうございます。前回の委員会でも効果についてのご指摘をいただき整理していますが、概要版への反映が不十分でした。10年後に目指すべき姿、今回の改訂で何が変わるのか、どう良くなるのかという効果の部分、計画の中に明確に位置付けたいと思います。コラム的な扱いにするか、本文の目標部分に記述するか検討し、分かりやすく要約します。
- ・ 委員長：委員のご意見に同感です。PDCAのチェックとアクションの部分、つまりこの計画を作った効果があった、ここが変わったという点を強調すべきです。パブリックコメントを行う際も、市民にそれが伝わるような整理をお願いします。
- ・ 委員：概要版についてですが、現在の案は情報量が多すぎて、市民向けとしては難しいと感じます。A4サイズ1枚程度で、老眼の方でも無理なく読めるような市民フレンドリーな概要版があればよいかと思います。概要版ではなぜこの計画が必要か、この計画があるとどう変わるのかというメッセージを伝えたほうが、計画本編も見てみようという流れになるのではと思いました。
- ・ 委員：私も同感です。専門用語ではなく、10年後も鎌倉のインフラは安心だと市民が感じられるようなメッセージが必要です。また、資料にあるマトリクス表、施設別施策と基本施策の対応表について、丸印がついている箇所と空白の箇所がありますが、例えば庁内連携などは全ての施設に関する重要な基盤です。これに丸がついていないのは違和感があります。どういう基準で整理しているのでしょうか。
- ・ 事務局：ご指摘ありがとうございます。庁内連携は全ての施設に共通するため、あえて丸をつけずにいましたが、誤解を招く恐れがあります。全てに該当する旨の注釈を入れるか、他分野横断的な新規施策として位置付けることも含めて、見せ方を工夫します。
- ・ 委員長：計画の効果を見える化することは非常に重要です。この10年で何が改善されたのか、今回の改訂でさらにどう良くなるのか、PDCAのCheckとActionが市民に伝わるような構成をお願いします。

### (4) 4 その他

- ・ 委員：リスク評価について、先ほど「財政リスク」の話がありましたが、各施設のリスク特定の中に「財政リスク」を明記して、大中小の評価を入れると、誤解がなくて良いかと思います。
- ・ 事務局：ありがとうございます。

## 6. 閉会

- ・ 委員長：皆様どうもありがとうございました。事務局の方から何かありますか。
- ・ 事務局：次回は年明け、1月9日を予定しています。その後パブリックコメントとなります。スケジュールの関係上、12月中に素案をメール等で配信し、事前にご確認いただきたいと考えております。今回の議論を踏まえた修正版をお送りしますので、よろしくお願いいたします。
- ・ 委員長：本日はありがとうございました。これをもちまして終了いたします。

以上